

製品名: FZR マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM86019**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000
分子量	55.2kDa

抗原情報

遺伝子名	FZR
別名	Fizzy-related protein homolog, Fzr, CDC20-like protein 1, Cdh1/Hct1 homolog, hCDH1, FZR1, CDH1, FYR, FZR, KIAA1242
遺伝子 ID	51343.0
SwissProt ID	Q9UM11
免疫原	この FZR 抗体は、ヒト FZR の 1 ~ 496 アミノ酸の組み換えタンパク質で免疫化されたマウスから生成されます。

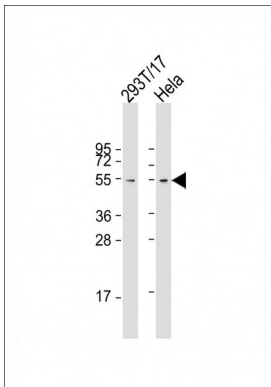
背景

後期促進複合体/サイクロソーム (APC/C) のリガーゼ活性の重要な調節因子であり、複合体に基質特異性を付与する。有糸分裂後期には CDC20 の代わりに APC/C と会合し、有糸分裂後期および終期には APC/C を活性化する。APC/C は基質分解において活性を維持し、細胞周期の正の調節因子が早期に蓄積しないようにする。G1/S 移行期には FZR1 がリン酸化され、APC/C から解離する。DNA 損傷後、G2 DNA 損傷チェックポイントに必要となる。FZR1 の脱リン酸化と APC/C との再会合は PLK1 のユビキチン化につながり、有糸分裂への移行を阻害する。

研究分野

-

画像データ



全レーン：抗 FZR 抗体 (1:2000 希釈)